

◆ 2022 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：新河岸川水系水環境連絡会

25A-28

代表者：代表 菅谷 輝美

URL :

1. 活動が必要とされた状況

28 年前から水質の一斉調査を行い、23 年程前からは水辺の生き物調査も流域全体で行って来ました。COD の測定値は改善される一方、肥料の成分が地下浸透から川に流出し、アンモニア性窒素値が依然として高い地点もあり、魚類等へ影響が心配されます。調査を続けて流域の市民と情報を共有し、良好な水辺環境の再生・保全を進める必要があります。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

(1) 身近な川の一斉調査 6月5日 参加団体 33 団体・3 学校（中・高・大）

調査定点 233 地点の 207 地点を 214 名で実施（写真①）。新河岸水系の水質データを全国水マップ事務局へ提出。

〈調査内容〉気温、水温、電気伝導度、透視度を計器で、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸素、pH をパックテストで測定し、データを集計。この後、調査データ報告書と里川・水質マップで公開の予定。

(2) 総合調査 4月9日 大森調節池総合調査 参加者：10 名

10月16日 大森池総合調査 参加者：26 名（写真②）

〈調査内容〉大森調節池は、埼玉県流域治水事業の調節池への流入量拡大のために調節池を広げる整備事業に合わせて、埼玉県生態保護協会と協働で一斉調査と同様の水質測定と、水生植物、水性昆虫、魚類、両生類、爬虫類を調査。調査データは埼玉県県土事務所へ提示。

(3) 全国川ごみ調査（水辺のごみ見つけ）

流域各団体・学校が実施。結果は全国事務局へ報告。

①



①



②



②



3. 活動の成果

昨年の一斉調査は、コロナ禍の中で密を避けるために、調査期間を拡大して6~7月の2か月間で実施したが、今年は6月中に行った。事業系処理水と畑の肥料散布の影響で、電気伝導度、アンモニア性窒素値、水温が高い地点があり、調査地点の周辺の土地の特性や問題点が明らかになりつつある。今後、問題のある場所の詳細な調査を行い、周辺市民への啓発を行うとともに、企業・行政とも協力して問題の解決方法を探っていききたい。

4. 今後に残された課題

連絡会に参加する団体の中で、高齢化により活動の範囲が狭まっている団体や活動が困難になっている団体があり、若年層をいかにして増やしていくかが課題となっている。

また、毎年の調査に必要な機材の老朽化に対応する資金を助成金に頼らなければならない状況もあり、自前での資金の調達も課題である。